

## 第10章 自己点検評価のまとめ

平成21年度について、金沢工業高等専門学校の教育方針、組織、教務、学務、管理、財務、自己点検評価システム等の全般にわたり評価しました。

それぞれの分野において、現時点で相応の改善が実現されているものと認識されます。特に、ものづくり教育、英語教育、キャリアデザイン教育における新施策については、今後の高専教育の発展の帰趨を占うもの考えます。また、小規模校ながら、3件の教育GPを並行推進してきたことは評価に値すると考えられる。

一方、学生定員の充足については、いまだ改善されていないことは、真摯に受け止めるべき事項です。設置当初から、財務面で学園依存傾向にある本校にとって、学生定員の未充足は、収入減に直結し正に死活問題です。学生募集体制を教員全員で実施するものを変更し、学生募集委員会メンバーを精選し対面募集に努力してきたが、若干の改善傾向にあるものの欠員を満たすには至っていません。その原因の一つには新入生の数は増加したものの、相変わらず2年生、3年生および4年生への進級時において進路変更する学生があり、学生数減に歯止めをかけていることが上げられます。今後は、募集活動を推進することは言うまでもなく、在校生の修学指導に努力を傾注し、途中退学や進路変更をする学生数を局限する必要があります。

高専における修学指導の主体は学級担任教員ですが、中途退学や進路変更学生の発意の根源を見ると、学力不足が主因です。この学力不足は入学試験の成績と強い相関がないことから、入学後の努力不足が主原因と考えます。今後、学生指導体制を強化し、全ての学生が5年間の学業を全うできるよう施策することが必要と認識し、具体策を講じてゆくことが大切です。このためには、教育改善の方向を模索してきたFD研修の目標を学生指導に転換することも必要です。

今後、本校が取り組むべきは学園の建学綱領の実現に向かって努力することは勿論のこと、特に次の3点に重点を置くことが大切と考えます。

- 1、エンジニアリングデザイン技法を発展させた、ものづくり教育技法（デザインシンキング・C D I O技法）の導入と咀嚼
- 2、技術のグローバル化へ対応できる教育プログラムの開発と試行
- 3、学生募集施策の更なる推進と在校生の修学指導の充実

近年、教員の若年化が進んでおり、学生との一体感が醸成されるようになった反面、ベテラン教員の有するいぶし銀的な学生指導にかけられる面も散見されるようになった。両者の長所を融合させ、学生の心の琴線に触れるような教育を実現し、建学綱領の実現に向かって努力して行く。